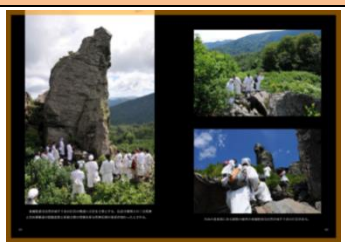


羽黒修験ドキュメント写真集 出羽三山 蘇る神氣 出羽三山神社御齋行「羽黒派古修験道 峰中 秋の峰入り」ジャンル

無線右綴製本・A5相当(210mm×145mm)・両面カラー印刷・専用ブックカバー付き・掲載写真数 539点・200ページ
キャプションテキスト付き・文庫本のようなカバー表紙付き・カバー下の本体表紙はクラフト調の素朴な紙を使用

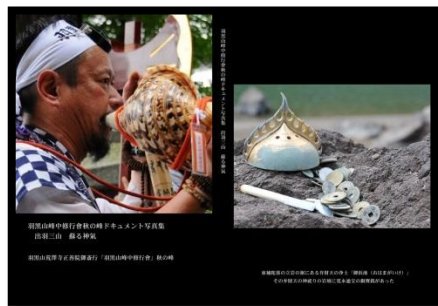
一千四百有余年の伝統を有する尊い羽黒派古修験道「秋の峰」峰中式を厳修し結願した修験者は、七日間も籠った羽黒山の吹越の「峰中堂」を後にする。最後に勢揃う手向の下宿「明光坊」に立ち戻った時は既に日も暮れていた。この坊で修験者は修めの勤行を行う。びんびんに響く声音、日々に山野跋涉に暮れた顔色は黒金光の精悍さ。蘇る神気に圧倒されるばかりである。(写真キャプションより抜粋)



松聖 百日勤行 冬の峰ドキュメント写真集 出羽三山 蘇る神氣 出羽三山神社御齋行「松聖百日勤行 冬の峰・松例祭」ジャンル

無線右綴製本・A5相当(210mm×145mm)・両面カラー印刷・専用ブックカバー付き・掲載写真数 357点・200ページ
キャプションテキスト付き・文庫本のようなカバー表紙付き・カバー下の本体表紙はクラフト調の素朴な紙を使用

1400年以上の歴史を持つ羽黒派古修験道。古より修験者が春夏秋冬と年4回の峰修行を行ってきた。中でも「冬の峰」は、修験者の最高位である松聖(位上・先途)が稲霊の憑依を祈る百日行に入る。満願の大晦日までの50日間は羽黒山参籠所に籠り、朝夕と羽黒山頂の蜂子神社、御本社、御手洗池、末社、御陵墓を巡拝するのである。(写真キャプションより抜粋)



羽黒山峰中修行會秋の峰ドキュメント写真集 出羽三山 蘇る神氣 羽黒山荒澤寺正善院御齋行「羽黒山峰中修行會」秋の峰ジャンル

無線右綴製本・A5相当(210mm×145mm)・両面カラー印刷・専用ブックカバー付き・掲載写真数 412点・200ページ
キャプションテキスト付き・文庫本のようなカバー表紙付き・カバー下の本体表紙はクラフト調の素朴な紙を使用

羽黒山の奥の院といわれる荒澤寺。古くからの修験道を堅持し、今もその伝統を羽黒山秋の峰として伝えている。羽黒修験道の秋の峰は、中世にはじまりをもつ宗教儀礼がその後の歴史の中で展開したもの。それは、熊野・大峯から日本各地の修験道組織に広がった山中修行の伝統に連なっている。明治初期の神仏分離政策(1868頃~1875)および修験道禁止令(1872)によって、その中世以来の伝統はほとんどの地域で消滅してしまった。そのなかであって、羽黒修験道の秋の峰は、おそらくは大峯に発する仏教思想の十界修行を通じた中世的な死と再生の儀礼を現在に伝える唯一の例として重い価値を持っている。(写真キャプションより抜粋)



修行道場ドキュメント写真集 出羽三山 蘇る神氣 出羽三山神社御齋行「神子修行道場」ジャンル

無線右綴製本・A5相当(210mm×145mm)・両面カラー印刷・専用ブックカバー付き・掲載写真数 447点・200ページ
キャプションテキスト付き・文庫本のようなカバー表紙付き・カバー下の本体表紙はクラフト調の素朴な紙を使用

平成五年、御開山1400年を期し、始めて女性の方にも山伏修行の道を開くこととして創設した神子修行は、内外に多大の感銘を与えました。心の時代としての出羽三山の新たな歴史を刻む幕開けとして期待され、高く評価されています。出羽三山御開祖の蜂子皇子の尊い足跡を尋ね、有難い遺戒・訓伝に浴し人間本来の真姿を悟り、明るく正しい清らかな世の中の顕現に寄与されんことを希い、神子修行道場は開設されました。(写真キャプションより抜粋)



修行道場ドキュメント写真集 出羽三山 蘇る神氣 出羽三山神社御齋行「錬成修行道場」ジャンル

無線右綴製本・A5相当(210mm×145mm)・両面カラー印刷・専用ブックカバー付き・掲載写真数 594点・200ページ
キャプションテキスト付き・文庫本のようなカバー表紙付き・カバー下の本体表紙はクラフト調の素朴な紙を使用

東北の霊場出羽三山(月山・羽黒山・湯殿山)は、推古元年(西暦593年)に、第32代崇峻天皇の皇子・蜂子皇子がお山を開かれた事に始まります。以来、修験の山、精霊の山、行の山として広く篤い信仰を重ねて来たお山です。皇子の厳しい修行を今に伝える羽黒派古修験道の山伏修行が現在も厳修されています。大自然に身をゆだね、神秘的な霊場である御神域に籠もり、神山を駆け、神前に額づき、禊と鎮魂の修行を通じ現代に生きる我々が忘れてしまった日本人の心と呼び覚まし、自己を見つめ直していただくために開催致します。(写真キャプションより抜粋)



